

**中部横断自動車道を見据えた
北杜市まちづくりビジョン
【道路プラン】**



平成27年3月

北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

目 次

1. 北杜市まちづくりビジョンとは	1
2. 道路プランとは	2
3. ワークショップの取組	3
4. 北杜市まちづくりビジョンを達成するための道路プラン	6
4-1 道路プランとは	6
4-2 道路プラン策定プロセス	7
4-3 道路プラン	8
4-4 道路計画の検討にあたって配慮が必要な地域資源	12
5. 今後の進め方	15
5-1 市民の取組プランの策定に向けて	15
5-2 まちづくりビジョンの達成に向けて	15

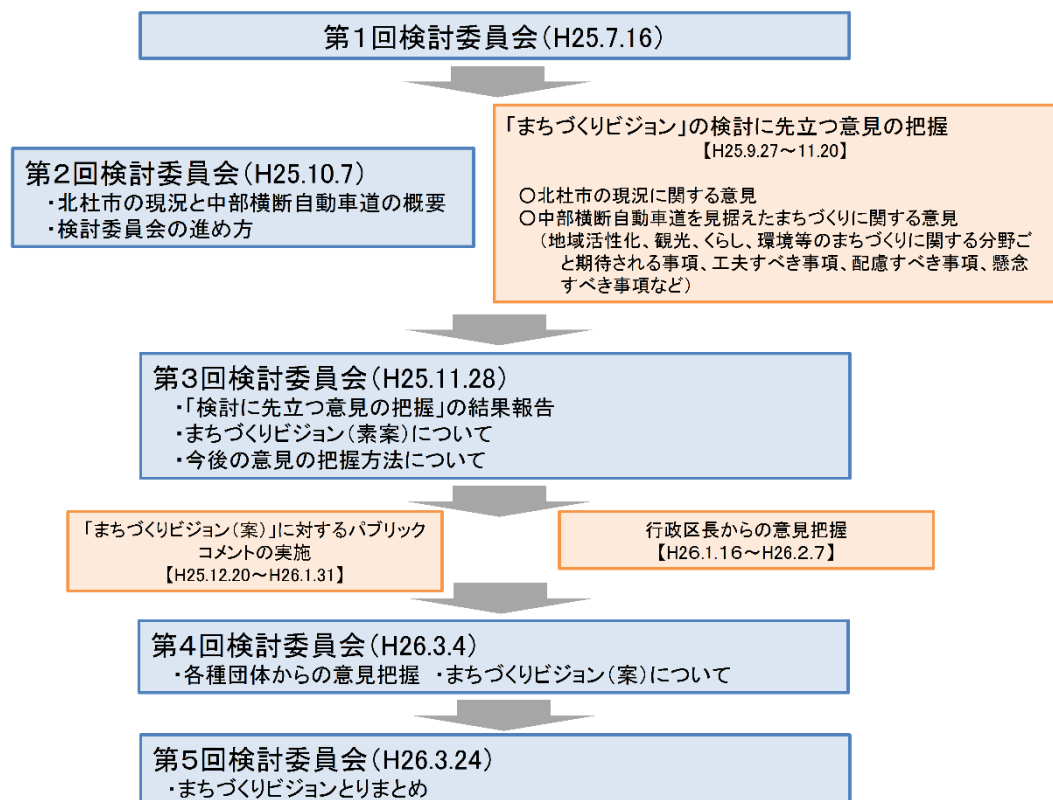
1. 北杜市まちづくりビジョンとは

北杜市まちづくりビジョン（以下、「まちづくりビジョン」）は、既定計画である「北杜市まちづくり計画」を踏まえ、中部横断自動車道の整備を見据え、沿線地域の将来像を明らかにし、北杜市の恵まれた地域特性を踏まえながら、地域の活性化に結びつける取組や方策等を、地域住民自らが主体的かつ計画的に推進するための指針となるものです。

まちづくりビジョンの検討に際し、北杜市中部横断自動車道活用検討委員会（以下、「検討委員会」）では、地域において様々なご意見をお持ちの団体の方などを対象に、まちづくりビジョンの検討に先立ち意見の把握を行い、まちづくりビジョン（素案）を作成しました。

まちづくりビジョン（素案）は、検討委員会での審議を経た後、様々な立場の地域の皆様の意見を把握するため、パブリックコメントの実施と行政区長の意見を把握し、各種団体から直接意見をお聞きしました。

全5回に及ぶ検討委員会での審議と、複数回にわたる地域の皆様からのご意見をふまえ、平成26年3月に北杜市まちづくりビジョンを策定しました。



図ー1 まちづくりビジョン策定経緯

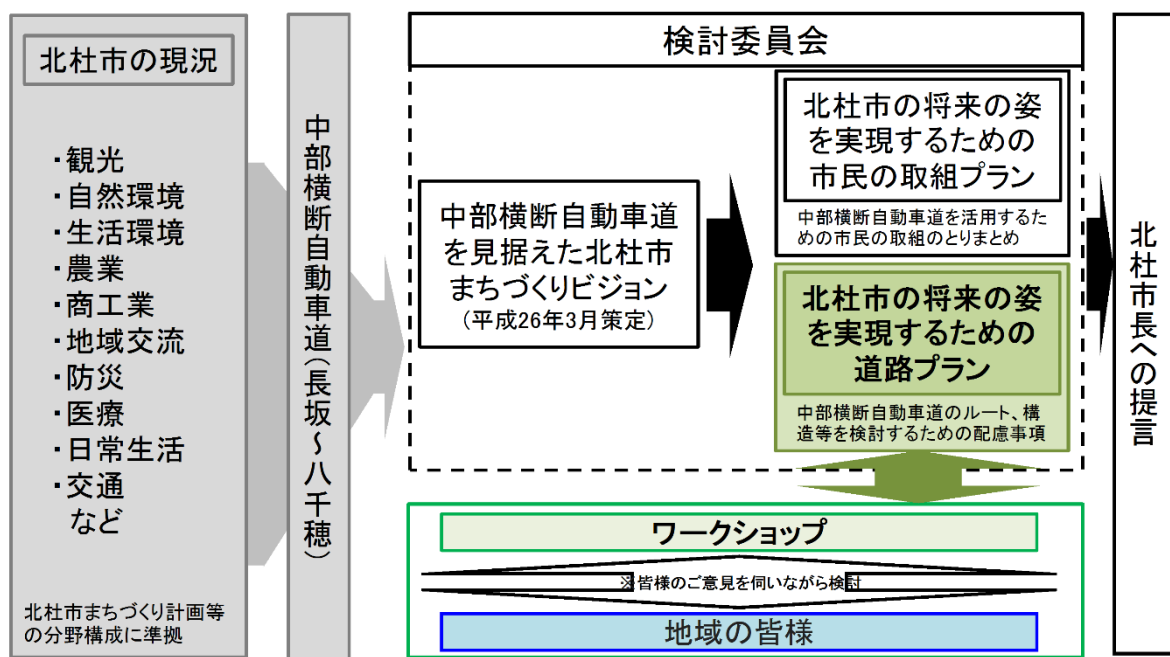
2. 道路プランとは

道路プランとは、まちづくりビジョンを達成するために中部横断自動車道への整備にあたっての配慮事項をとりまとめたものです。

■道路プランの検討の流れ

道路プランは、公募で参加して頂いた方による関係者ワークショップ、無作為で選ばれた方の中から参加して頂いた市民ワークショップによる議論を経て、北杜市中部横断自動車道活用検討委員会（以下、「検討委員会」）においてとりまとめられたものです。

道路プラン策定の流れは下図のとおりです。



※：□□（点線四角枠）で示した箇所が、検討委員会で審議する内容

図－2 道路プラン策定の流れ

3. ワークショップの取組

まちづくりビジョンの具体化は、地域住民にとって身近なもの、行政が真摯に取り組まなければならないもの、地域住民自らが取り組むものなどをまとめることです。

まちづくりビジョンの達成に向けた具体的な方策や取組の1つとなる『道路プラン』は、地域住民にとって身近な事象であるとともに、行政が真摯に取り組まなければならないことであることから、これらに対して積極的な姿勢をもつ地域住民の参画が可能となるワークショップ形式で実施することとしました。

ワークショップは、ファシリテータ¹⁾の進行のもと、様々な立場の地域の皆様から、多くの意見を頂き、全5回にわたり、のべ120名の地域の皆様と協働で取り組みました。

1)ファシリテータとは：人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶよう舵取りする人のことをいう。会議で言えば、進行役にあたる。集団による問題解決、アイデア創造、教育、学習など、あらゆる知識創造活動を支援し促進していく働きを担う。出典：特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

表-1 ワークショップの開催概要

開催日		場所	参加人数	主な議論テーマ	
関係者ワークショップ	平成26年 11月21日(金)	午後7時～ 10時	須玉ふれあい館	28名	インターチェンジの必要性 など
	平成26年 12月1日(月)	午後7時～ 9時30分	北杜市北館会議室	25名	重要な地域資源の抽出 など
	平成27年 1月16日(金)	午後7時～ 9時30分	須玉ふれあい館	25名	地域資源の重要性とルート への配慮事項 など
	平成27年 2月6日(金)	午後7時～ 9時30分	須玉ふれあい館	18名	道路構造への配慮事項 など
市民ワークショップ	平成27年 2月15日(日)	午前9時～ 午後4時30分	北杜市北館会議室	24名	中部横断自動車道について 理解し、地域資源（地域の 宝物）と道路構造（道路の つくり方）を考える など

ワークショップは、「関係者ワークショップ」「市民ワークショップ」の2つの方法で取り組みました。

関係者ワークショップは、「産業、観光などの専門知識を持った方がアイデアを出す。」「今後の市の産業・活動を担う世代が、責任を持って考えを述べる。」ことを目的に取り組みました。

市民ワークショップは、「関係者ワークショップで出された様々な意見や対応案などについて一般的な立場としての市民が議論し、考えを述べ、補足や追加意見を述べる。」場としてワークショップとしての意見をよりよくするために取り組みました。

北杜市中部横断自動車道活用検討委員会とワークショップの関係は下図のとおりです。

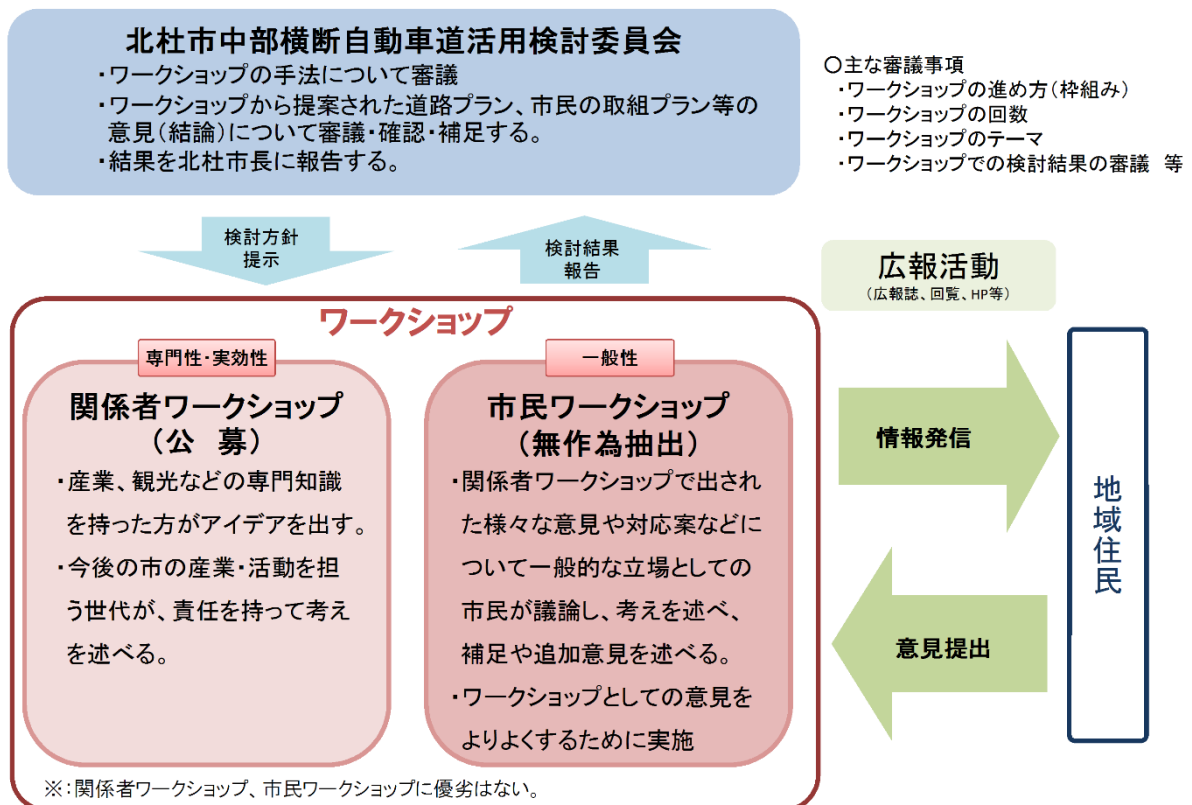


図-3 北杜市中部横断自動車道活用検討委員会とワークショップの関係

4回の関係者ワークショップと1回の市民ワークショップによる議論に加え、地域の皆様からのご意見を踏まえ道路プラン案を作成し、検討委員会に報告しました。

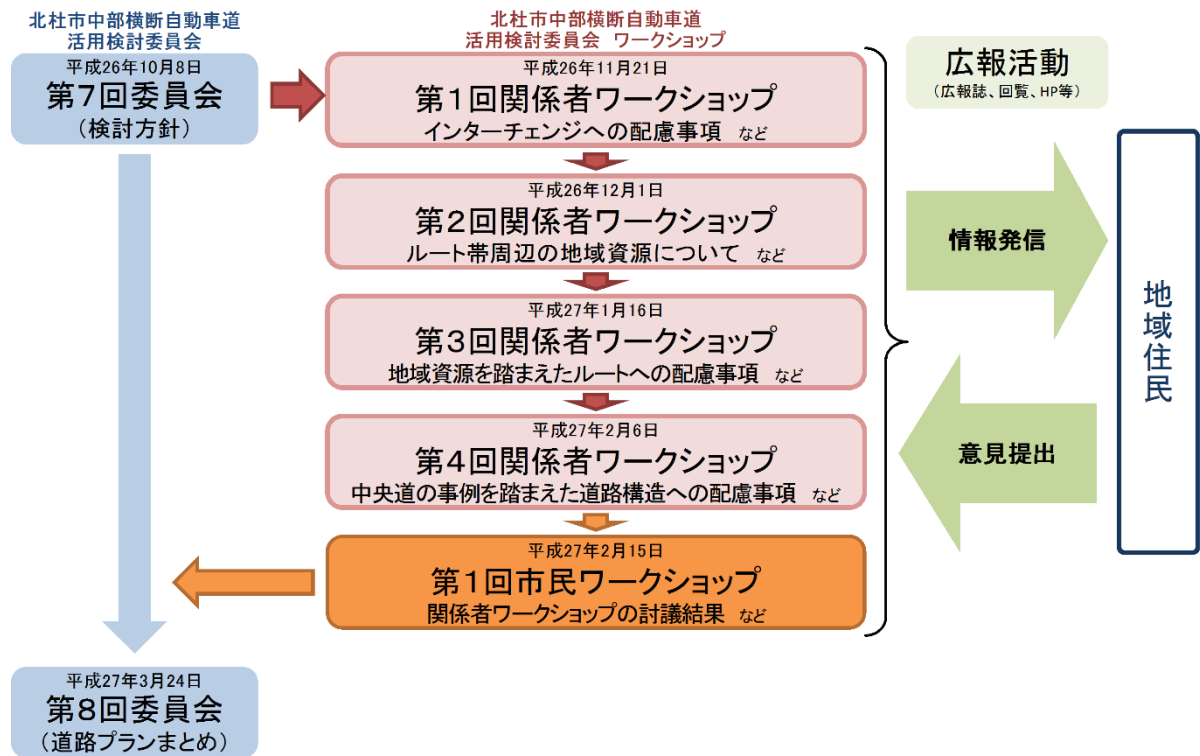


図-4 ワークショップの検討経緯と道路プラン策定までの流れ

ワークショップの取組内容については、以下の各総合支所、北杜市HPからご覧になることができます。

表-2 ワークショップの取組内容が閲覧できる場所

閲覧場所		住所	電話番号
北杜市 本庁	建設部 道路 河川課	〒408-0188 須玉町大豆生田 961-1	0551-42-1363
北杜市 明野総合支所	地域 振興課	〒408-0204 明野町上手 5219-1	0551-42-1112
北杜市 須玉総合支所		〒408-0192 須玉町若神子 2155	0551-42-1113
北杜市 高根総合支所		〒408-8511 高根町村山北割 3261	0551-42-1114
北杜市 長坂総合支所		〒408-8585 長坂町長坂上条 2575-19	0551-42-1115
北杜市 大泉総合支所		〒409-1502 大泉町谷戸 3025	0551-42-1116
北杜市 百州総合支所		〒408-0315 百州町白須 312	0551-42-1117
北杜市 武川総合支所		〒408-0306 武川町山高 1457-3	0551-42-1118
北杜市 小淵沢総合支所		〒408-8555 小淵沢町 835	0551-42-1119
北杜市ホームページ			http://www.ne-ict.com/hokuto/

4. 北杜市まちづくりビジョンを達成するための道路プラン

4-1 道路プランとは

道路プランは、まちづくりビジョンを達成するために中部横断自動車道への整備にあたっての配慮事項や中部横断自動車道が通過するだけの道路ではなく地域活性化に大きく寄与するものとなる工夫などを、地域の皆様のご意見を踏まえてとりまとめたもので、まちづくりビジョンの各分野（環境・景観、くらし、地域活性化、観光）の基本方針、視点について具体化したものです。

表-3 まちづくりビジョンと道路プラン

まちづくりビジョン			
分野	基本方針	視点	道路プラン
環境・景観	多様な自然・環境・景観とともに	豊かな自然環境との調和と共生	【環境全般】 ・ 自然環境や貴重な動植物の生育・生息状況を把握するための環境の調査 ・ 市内の集落・住宅地等の地域分断への影響低減対策の実施 【動物の保全対策】 ・ ヤマネをはじめとする市内に生息する貴重な動物の保全対策（アニマルパスウェイ等） ・ フクロウをはじめとする市内に生息する貴重な猛禽類の保全対策 【道路構造】 ・ ハケ岳をはじめとする市内から眺望できる山岳・里山景観や豊かな自然環境への影響を低減する道路構造の検討 ・ 市内の集落・住宅地等を出来る限り回避したルートの計画 ・ 周辺景観と調和した橋梁形式などの採用 ・ 四季折々の景観を楽しみながら走行できる道路構造の検討 【道路付属物】 ・ 静かな生活環境への影響を低減させるための舗装技術（排水性、低騒音）などの活用 ・ 満天の星空への影響を低減する道路照明施設の工夫 ・ 眺望を阻害することのない案内標識などとする道路付属物の工夫
		優れた景観の保全	
		良好な生活環境への配慮	
		貴重な動植物との共存	
くらし	安全・安心で快適なくらしのために	安全・安心の確保に向けて	【道路設計】 ・ 高齢者などにも運転しやすい安全基準を満たした道路の設計 ・ ドライバーの安全確保のための待避所や登坂車線の設置 ・ ゲリラ豪雨などの異常気象や冬季の気象条件を考慮した道路の安全対策 【緊急時の活用】 ・ 緊急車両が有事の際に市内からアクセスできる出入口の設置 ・ 市内の防災拠点や医療拠点へアクセスしやすくなる幹線道路への接続やヘリポートなどの施設との連携の検討 【公共交通】 ・ 公共交通拠点との連携を考慮した駐車施設などの設置
		くらしやすさの向上	
地域活性化	魅力あふれる元気なまちを目指して	六次産業化・農業と観光の融合による地域活性化	【インターチェンジ】 ・ 日常生活の営みや余暇活動がしやすくなるエリアへのインターチェンジの配置 ・ 地域の産業集積場へのアクセス性などの物流効率化の向上に資するエリアへのインターチェンジの配置 ・ 道の駅などの地域連携機能施設へアクセスしやすくなるエリアへのインターチェンジの配置 【アクセス道路】 ・ 地域住民が利用しやすい市内幹線道路への接続 ・ 地元農産物の販売経路などに考慮したインターチェンジへのアクセス道路の整備
		商工業の活性化	
観光	にぎわい創出玄関口づくり	観光拠点へのアクセス	【インターチェンジ】 ・ 観光拠点へアクセスしやすくなるエリアへのインターチェンジの配置 ・ 国道141号やハケ岳広域農道（レインボーライン）など市内幹線道路への接続 【休憩施設】 ・ 道路利用者や観光客に豊かな景色や散策を提供できる休憩施設の設置 【情報提供】 ・ 観光拠点へのアクセスや周辺の観光スポットの周遊を容易にする情報提供や道路付属物（情報案内板や案内標識）の工夫
		豊かな景色を満喫できる場の工夫	
		周遊・滞在（型）観光を促進する情報発信の工夫	

4-2 道路プラン策定プロセス

道路プランは、関係者ワークショップ及び市民ワークショップで頂いたご意見をもとに、中部横断自動車道の整備にあたっての配慮事項などに資する意見を抽出し、まちづくりビジョンの4つの分野（環境・景観、くらし、地域活性化、観光）に分類しました。

分類した意見を整理し、キーワードや意見の主旨を踏まえて、分野毎に道路プランを策定しました。

各ワークショップから抽出し、分類、整理した意見については、参考資料編を参照下さい。

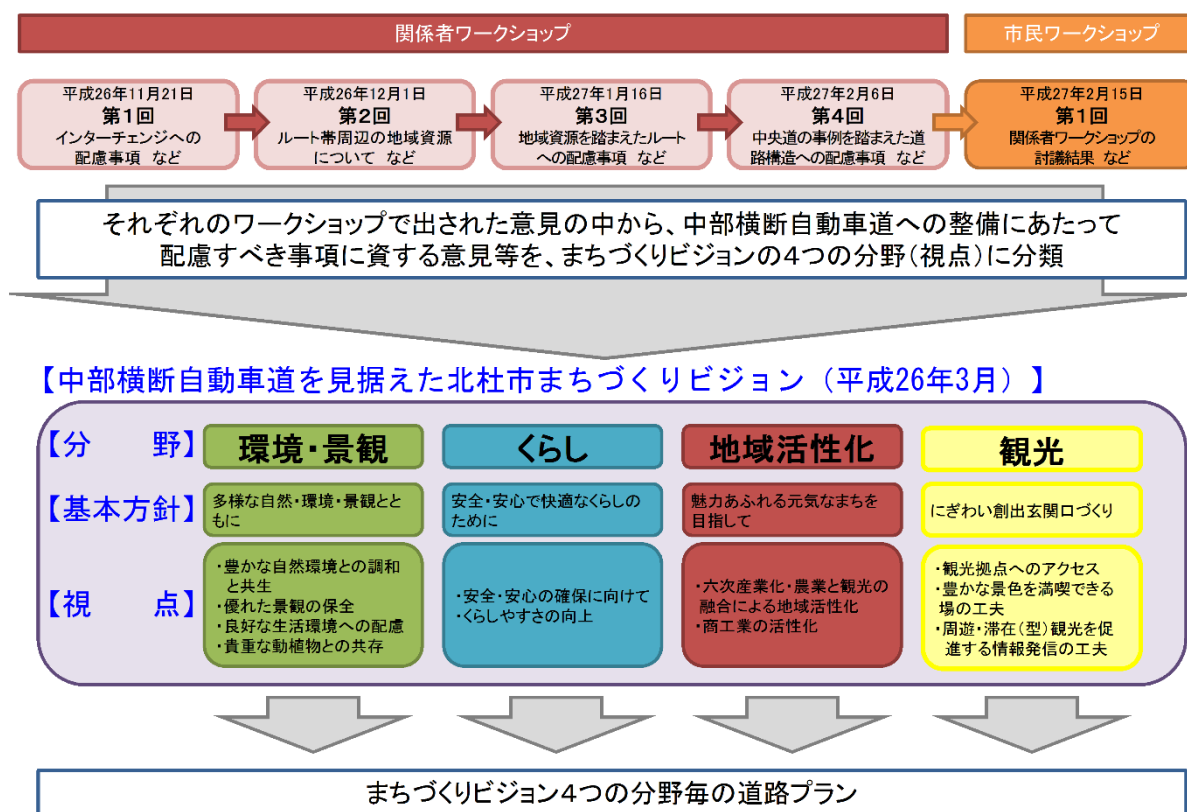


図-5 道路プランの考え方

4-3 道路プラン

4-3-1 環境・景観

北杜市は、八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳から連なる南アルプス、茅ヶ岳や瑞牆山などの山々に囲まれた緑豊かな地域であり、また、歴史的、文化的価値をもつ遺跡、神社仏閣など数多く点在する地域です。

恵まれた自然環境では、貴重な動植物が生息・生育しており、貴重な自然から得られる恵みを楽しみながら、良好な環境のもとで生活を営んでいます。また、先人たちが育んできた歴史や文化が今の私たちの生活の礎となっています。

これらの誇れる北杜市特有の恵まれた自然景観や、それらを楽しんだ生活環境、貴重な動植物が生息する自然環境を次世代に継承していくために、中部横断自動車道の整備を見据えたまちづくり・みちづくりにあたっては、以下の事項に配慮しながら、取り組んでいくことが望ましいと考えられます。

■道路プラン（環境・景観）

【環境全般】

- ・自然環境や貴重な動植物の生育・生息状況を把握するための環境の調査
- ・市内の集落・住宅地等の地域分断への影響低減対策の実施

【動物の保全対策】

- ・ヤマネをはじめとする市内に生息する貴重な動物の保全対策（アニマルパスウェイ等）
- ・フクロウをはじめとする市内に生息する貴重な猛禽類の保全対策

【道路構造】

- ・八ヶ岳をはじめとする市内から眺望できる山岳・里山景観や豊かな自然環境への影響を低減する道路構造の検討
- ・市内の集落・住宅地等を出来る限り回避したルート計画
- ・周辺景観と調和した橋梁形式などの採用
- ・四季折々の景観を楽しみながら走行できる道路構造の検討

【道路付属物】

- ・静寂な生活環境への影響を低減させるための舗装技術（排水性、低騒音）などの活用
- ・満天の星空への影響を低減する道路照明施設の工夫
- ・眺望を阻害することのない案内標識などとする道路付属物の工夫



4-3-2 くらし

北杜市では、昨今の防災・減災意識の高まり、平成26年2月に起きた大雪災害の教訓、中部横断自動車道の利活用によるくらしやすさの向上など、地域住民の危機意識の高まりやくらしの利便性向上の意識が広がっています。

人々のくらしを支える道路は、普段の日常生活の行動を便利にするとともに、将来起こりうる災害に備えた機能を有し、緊急時などに安心して迅速かつ安全に利用でき、命を守ることが求められるため、中部横断自動車道の整備を見据えたまちづくり・みちづくりにあたっては、以下の事項に配慮しながら、取り組んでいくことが望ましいと考えられます。

■道路プラン（くらし）

【道路設計】

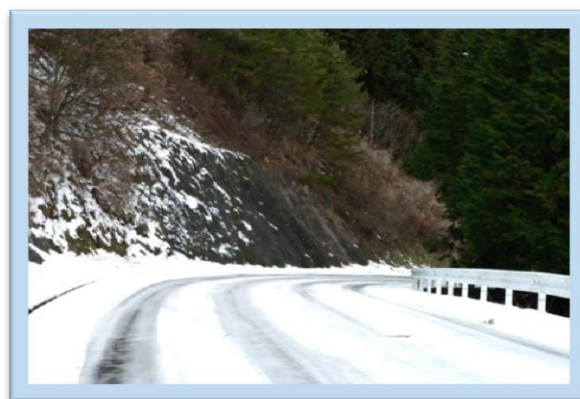
- ・高齢者などにも運転しやすい安全基準を満たした道路の設計
- ・ドライバーの安全確保のための待避所や登坂車線の設置
- ・ゲリラ豪雨などの異常気象や冬季の気象条件を考慮した道路の安全対策

【緊急時の活用】

- ・緊急車両が有事の際に市内からアクセスできる出入口の設置
- ・市内の防災拠点や医療拠点へアクセスしやすくなる幹線道路への接続やヘリポートなどの施設との連携の検討

【公共交通】

- ・公共交通拠点との連携を考慮した駐車施設などの設置



4-3-3 地域活性化

北杜市は、優良農地で生産される米や高原野菜の販売、自然資源を活用した観光産業を主体として発展してきました。近年では、日照時間日本一を活かした太陽光発電などのクリーンエネルギー産業にも取り組み、産業振興や活性化に努めています。

これまでの生産・産業活動をより便利に、更には、新たな販路やビジネスチャンスの創出による産業の活性化、人々の交流による賑わいのある元気なまちをつくるために、中部横断自動車道の整備を見据えたまちづくり・みちづくりにあたっては、以下の事項に留意しながら、取り組んでいくことが望ましいと考えられます。

■道路プラン（地域活性化）

【インターチェンジ】

- ・ 日常生活の営みや余暇活動がしやすくなるエリアへのインターチェンジの配置
- ・ 地域の産業集積場へのアクセス性などの物流効率化の向上に資するエリアへのインターチェンジの配置
- ・ 道の駅などの地域連携機能施設へアクセスしやすくなるエリアへのインターチェンジの配置

【アクセス道路】

- ・ 地域住民が利用しやすい市内幹線道路への接続
- ・ 地元農産物の販売経路などに考慮したインターチェンジへのアクセス道路の整備



4-3-4 観光

北杜市は、清里地域をはじめとする山梨県内でも有数の観光拠点をかかえているほか、市内に3カ所設置されている道の駅など市内全域に観光拠点が広がっています。多様な観光客を多く呼び込み楽しんでもらい、リピーターを増加させることが観光振興に繋がることから、市の玄関口となるインターチェンジは便利な場所により多く設置されることが望ましいと考えます。

また、北杜24景に代表される山岳景観は、観光振興の大きなセールスポイントとなることから、大自然の豊かな景色を眺望できる場が整備されることが望ましいと考えます。

こうしたことから、中部横断自動車道の整備を見据えたまちづくり・みちづくりにあたっては、以下の事項に留意しながら、取り組んでいくことが望ましいと考えられます。

■道路プラン（観光）

【インターチェンジ】

- ・観光拠点へアクセスしやすくなるエリアへのインターチェンジの配置
- ・国道141号や八ヶ岳広域農道（レインボーライン）など市内幹線道路への接続

【休憩施設】

- ・道路利用者や観光客に豊かな景色や散策を提供できる休憩施設の設置

【情報案内】

- ・観光拠点へのアクセスや周辺の観光スポットの周遊を容易にする情報提供や道路付属物（情報案内板や案内標識）の工夫

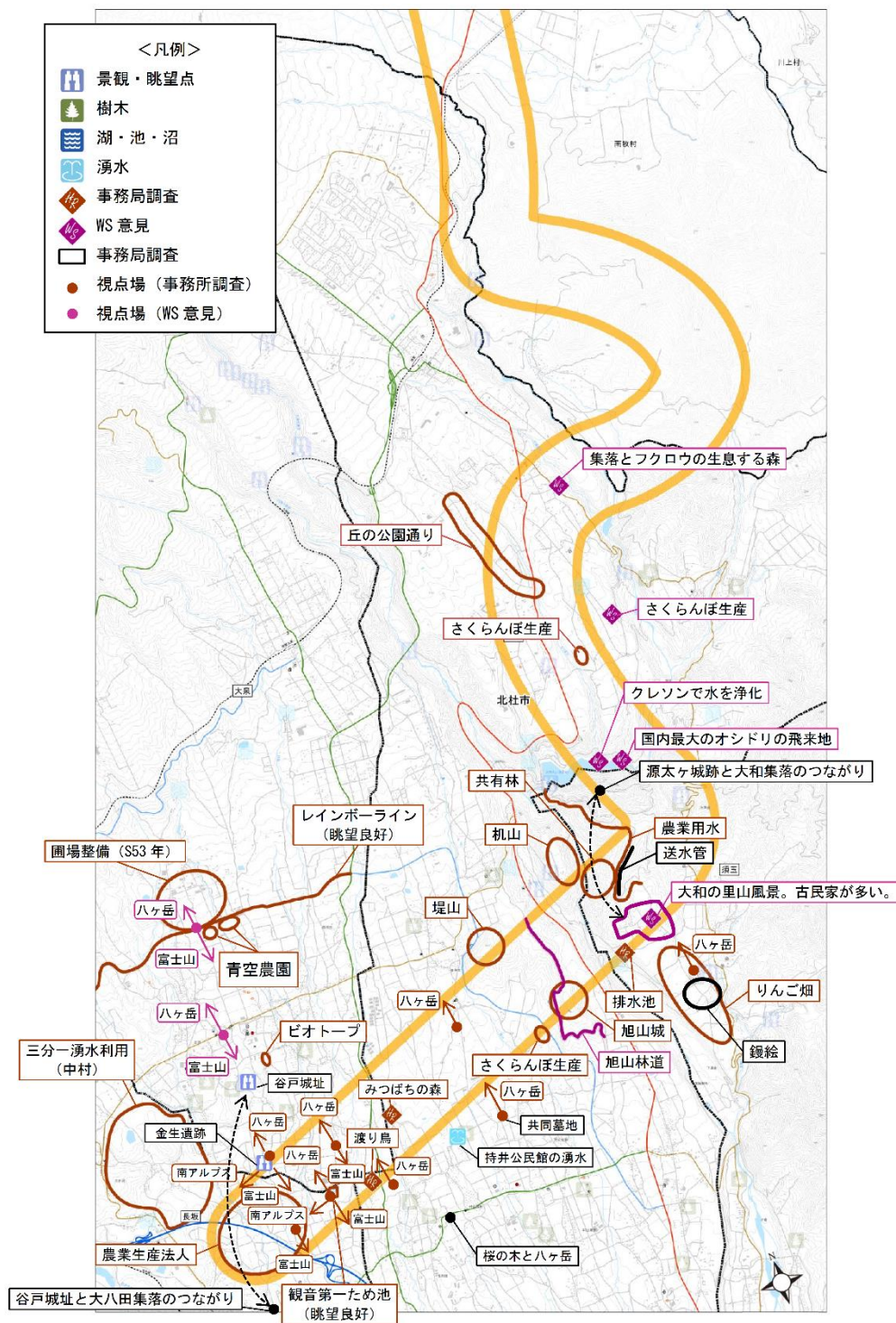


4-4 道路計画の検討にあたって配慮が必要な地域資源

地域資源とは、北杜市固有の自然環境、神社仏閣、観光施設などのことであり、今後の北杜市のまちづくりを考える素材となるものです。

中部横断自動車道の整備を見据えたまちづくり・みちづくりにあたっては、地域資源に配慮し育んでいくことが必要と考えます。

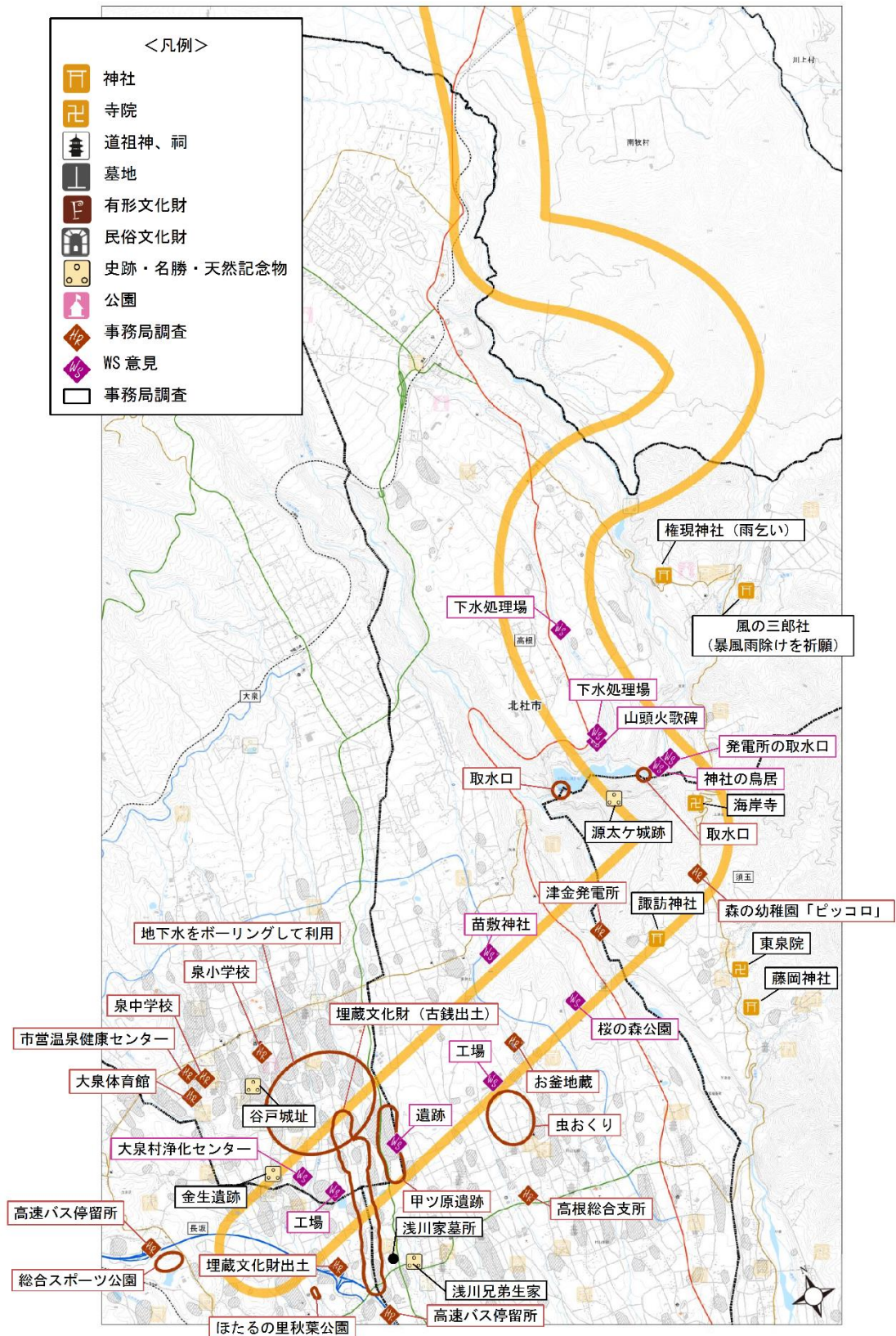
【環境・景観】



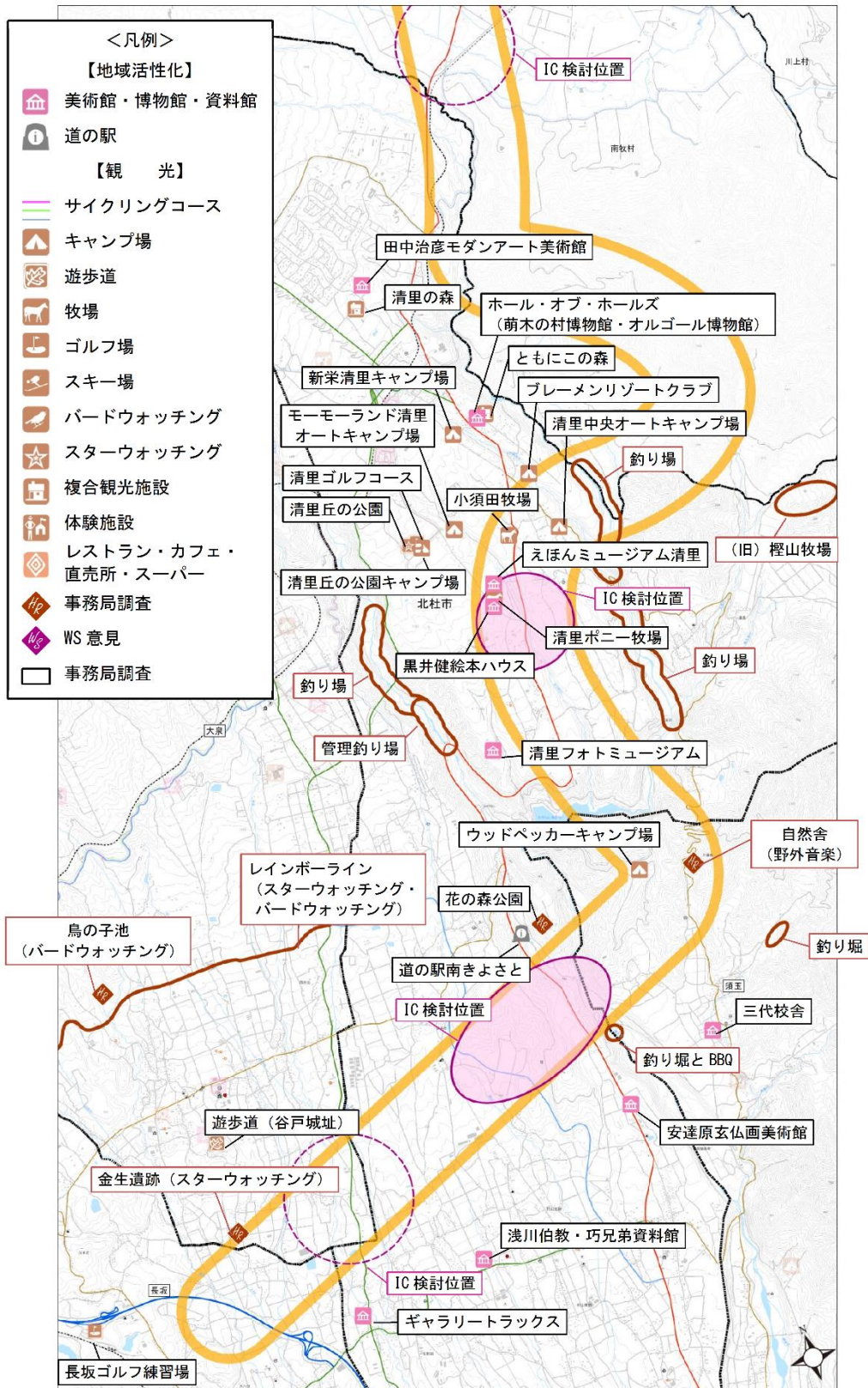
＜その他、ワークショップで頂いた地域資源（注：（ ）は事務局で部分的に加筆したものです。）＞

富士山（の眺望）、ハケ岳（の眺望）、里山景観、自然資源、貴重な動植物（ヤマネ、フクロウ、鳥）、昆虫（ほたる、蝶）など、里山の生物、ゆたかな水（湧水）、（澄んだ）空気、（市内から見える）星空、山体から山麓の一带空間、静寂な環境、別荘地、農地 など

【くらし】



【地域活性化・観光】



5. 今後の進め方

5-1 市民の取組プランの策定に向けて

まちづくりビジョンを達成するため、地域住民が主体となって取り組むべきことや行政が主体となって取り組むべきことなど、中部横断自動車道の整備を見据えた、地域活性化に結びつけるための具体的な取組となる「市民の取組プラン」の策定に引き続き取り組んで参ります。

今後の検討においても、市民の皆さまのご意見を聞きながら、行政と地域とが協働して取り組む事項について取りまとめて参ります。

5-2 まちづくりビジョンの達成に向けて

まちづくりビジョン達成のため、地域住民をはじめとする関係者が一体となり官民が協働して中部横断自動車道を見据えたまちづくり・みちづくりに取り組むことが、地域の活性化に大きく寄与するものと考えます。

また、地域住民が主体となって取り組むべきことや行政が主体となって取り組むべきことなど、地域活性化に結びつけるためのより具体的な取組をそれぞれの立場で実践することも必要となります。

【お問い合わせ先】

北杜市 建設部 道路河川課 TEL 0551-42-1363
FAX 0551-42-2235